

清水幾太郎 (しみず・いくたろう) 1907～1988

社会学者・評論家 ～戦後民主主義の旗手から憂国のナショナリストへ～

出生 1907年(明治40)7月9日、東京市日本橋区(現・中央区東日本橋)に竹材商を営む旧旗本の長男として生まれる。没落士族の生家は裕福ではなかった。

履歴 東京帝国大学文学部社会学科卒業(1931)。東大副手となるが免職となったため、朝日新聞、読売新聞等に執筆しつつ、在野の社会学者として著作を発表。戦後は、学習院大学教授(1949～69)を務めながら、ジャーナリズムでも旺盛な評論活動を展開した。この間、二十世紀研究所(1946)、平和問題談話会(1949)、現代思想研究会(1960)等の団体を組織する。

事績 オーギュスト・コント研究を出発点に一貫して社会学者として歩み、多くの学問的著作を発表、「清水社会学」を樹立した。一方、戦後の講和問題や内灘・砂川の基地反対運動から1960年の安保反対運動に至るまで、論壇の中心にあって平和主義・民主主義の立場から積極的に発言し行動した。その後、思想的転回を経て国家主義的立場に転じ、70年代以後は日本的伝統の尊重、反共、防衛力増強を強く主張した。

評価 社会学者としての業績は定評を得ているが、思想家としてはその振幅の大きさから評価が分かれる。例えば、福田恆存は清水の言動を、時代に流される近代日本の知識人の典型として否定的に見ているが、袴田茂樹は同じく典型としながら清水の時代を読む敏感さや分析の鋭さを評価する。清水のアジテーター的能力と先見性は多くの論者が認めている。(次頁「参考文献」参照)

代表作

『論文の書き方』自らの経験に基づき文章の書き方を教える実用書。軽快な筆致と豊富な内容で、1959年に岩波新書として出版されるやベストセラーとなった。著作集にはない。原本は<816/14>にあり。

『現代思想』20世紀の初頭、30年代、60年代の諸思想を論じるが、思想の解説ではなく、芸術・政治的事件・電子計算機・レジャーなども対象とするユニークでダイナミックな著作。著作集12に収録。

『倫理学ノート』ついに書かれなかった岩波全書『倫理学』のための準備作業的著作であるが、G・E・ムア、ベンサム、ヴィトゲンシュタイン、ヴィーコらの思想を縦横に論じる。著作集13に収録。

キーワード

今こそ国会へ 雑誌『世界』の論文名(1960年)。清水は、安保反対の国会請願を国民に直接行動として呼びかけた。核の選択 雑誌『諸君』の特集名(1980年)。清水の自費出版図書『日本よ国家たれ』を雑誌に再録したものの。日本の核武装が中心的な主張ではなかったが、題名が大きな反響を呼んだ。

ILノート 60年安保では最も急進的な全学連主流派を支持し、反安保の学者・文化人のなかでも熱意と行動が突出していた。それだけに孤立と挫折の思いも深く、この体験がその後の清水の思想的転回につながったともみられる。

最期 1988年(昭和63)8月10日、心不全・呼吸不全のため東京都新宿区の慶応大学病院で死去。享年81歳。



週刊読書人提供

Great Works 32

清水幾太郎著作集 全19巻 講談社 1992～1993年 <081.6 / 107>

解題 本著作集19の著作目録によれば、清水幾太郎の著作は図書として刊行された自著だけで94点に上る(再刊は含まず)。この多産な思想家の著作集を出版する計画は、著者の生前何回かあったが結局実現しなかった。著者の没後、その著作の多くが入手困難になったため、「清水幾太郎の思想を吟味し検討し、或いは利用するための素材を提供することを任務として」、この著作集が刊行された。責任編集に当たり、全巻の解題を執筆した清水禮子氏は著者の長女である。

内容

- 1 社会学批判序説 [理想社出版部 1933年] 社会と個人 社会学成立史 [刀江書院 1935年]
- 2 流言蜚語 [日本評論社 1937年 岩波書店 1947年(新版) デマや噂についての先駆的研究] 青年の世界 [同文館 1937年] 人間の世界 [刀江書院 1937年 最初の論文集]
- 3 社会的人間論 [河出書房 1940年] 現代の精神 [三笠書房 1939年 論文集] 【論文】 市民社会 [1940年] ハンス・ファイヒンゲル [1938年]

- 4 常識の名に於いて [古今書院 1940年 新聞コラム等の短文集。福田恆存の編集] 心の法則 [古今書院 1940年 「常識の名に於いて」と同様の短文集】【論文】素朴の精神 [1941年] シルレル [1939年] 他
- 5 組織の条件 [東洋経済新報社 1940年 論文集] 美しき行為 [実業之日本社 1941年 論文集]
- 6 民主主義の哲学 [中央公論社 1946年 アメリカ思想関係の論文集] 今日の教育 [岩波書店 1947年 書き下ろし] 私の読書と人生 [要書房 1949年] 【論文】競闘 [1941年] 現実の再建 [1943年] 他
- 7 社会学講義 [白鳥書院 1948年 岩波書店 1950年改訂新版 47~48年の東北帝大での集中講義から生まれる。著者の文学博士学位論文。社会学概論として世評が高い]
- 8 愛国心 [岩波書店(岩波新書) 1950年] 【論文】主体性の客観的考察 [1947年] 匿名の思想 [1948年] 或る社会学者への手紙 [1952年] 他
- 9 社会心理学 [岩波書店(岩波全書) 1951年] ジャーナリズム [岩波書店(岩波新書) 1949年] 【論文】総合雑誌 [1960年] テレビジョン時代 [1958年]
- 10 私の心の遍歴 [中央公論社 1956年 自伝的作品] 【論文】「運動」の内外 [著作集のために付けられたタイトル。以下の論文を含む] 講和会議に寄す [1951年] 内灘 [1953年] われわれはモルモットではない [1954年] 今こそ国会へ [1960年] 安保闘争の「不幸な主役」 [1960年] 他
- 11 精神の離陸 [竹内書店 1965年 論文集] 【論文】日本人の自然観 関東大震災 [1960年] 最終講義 オーギュスト・コント [1969年] 見落とされた変数 1970年代について [1970年] 他
- 12 現代思想 [岩波書店(岩波全書) 1966年 書き下ろし]
- 13 倫理学ノート [岩波書店 1972年]
- 14 わが人生の断片 [文藝春秋 1975年 自伝的作品]
- 15 この歳月 [中央公論社 1976年 随筆集]
- 16 昨日の旅 [文藝春秋 1977年 ラテン・アメリカ、スペイン紀行] 現代史の旅 [文藝春秋 1983年 イスラエル、ポーランド、西ドイツ紀行]
- 17 戦後を疑う [講談社 1980年] 【論文】新しい戦後 [1980年 自費出版『日本よ国家たれ』の第1部] 戦後史をどう見るか [1969年] 安保後の知識人 [1977年] 他
- 18 オーギュスト・コント [岩波書店(岩波新書) 1978年] 私の社会学者たち [筑摩書房 1986年]
- 19 補遺 [主として単行本未収録の文章 66篇] 年譜 目録 [執筆目録 著作目録 訳書目録 編輯/監修作品目録]

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 清水幾太郎 ある戦後知識人の軌跡(神奈川大学評論ブックレット) / 小熊英二著
御茶ノ水書房 2003年 95p <289.1MM / 4351> 資料番号 21660402
- 清水幾太郎の「20世紀検証の旅」 / 松本晃著
日本経済新聞社 2000年 237p <289.1MM / 4295> 資料番号 21633961
- 危機のイデオログ 清水幾太郎批判 / 天野恵一著
批評社 1979年 276p <363.02L / 83> 資料番号 10985984

<図書(部分)>

- 清水幾太郎 / 袴田茂樹著(言論は日本を動かす 第10巻)
講談社 1985年 p219 - 248 <281T / 122 / 10> 資料番号 12357240

<雑誌論文>

- 一思想家の歩んだ道 清水幾太郎の思想の変遷 / 田中五郎著
政治・経済・法律研究(拓殖大学政治経済研究所) 4(2) [2002.1] <Z305 / 543>
- 「倫理学」清水幾太郎 書かれなかった名著 / 武者小路公秀著
明治学院論叢国際学研究(明治学院大学) 通号 13 [1995.1] <Z051.3 / 144>
- 清水幾太郎私論 / 鈴木広著
社会学評論(日本社会学会) 40(4) [1990.3] <Z361 / 33>
- 清水幾太郎の業績とその着想 / 藤竹暁著
社会学評論(日本社会学会) 40(4) [1990.3] <Z361 / 33>
- 昭和思想史と清水幾太郎 / 林健太郎著
諸君(文藝春秋) 20(10) [1988.10] <Z051 / 115>
- 闇に立った予言者清水幾太郎氏の晩年 上・下 / 中島嶺雄著
Asahi journal(朝日新聞社) 30(42-43) [1988.10.14-21] <Z051 / 16>
- 近代日本知識人の典型清水幾太郎を論ず / 福田恆存著
中央公論(中央公論社) 95(13) [1980.10] <051 / 4>